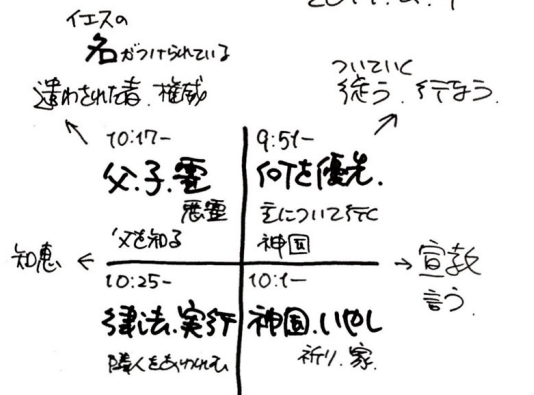
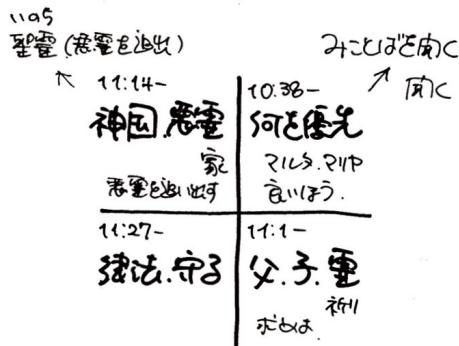




ルカ福音書9:51-11:28

ルカ 9:51-11:28

2017.2.9



みことばを肉に - 聖霊が宿る
良いほうを
父の家に住む

イエスに送る - イエスの名がつけられた子
みことばを送る
遣わされた者. 権威
主の子

(羊飼と羊々)

ルカ福音書9章51節から18章30節まで。大きく2つに分かれます。それぞれの段落が、「悪者、偽り者との戦い」「欲望、罪との戦い」というふうに分かれている。この最初の「悪者、偽り者との戦い」の段落の半分、9章51節から11章27節の分析をしています。

9章51節から10章37節までの段落と、10章38節からの段落と2つに分かれるのですが、2つに分かれたものを4つに分けた時に、似たような形になっています。

10章37節までの4つと、10章38節から11章28節までの4つが似ているでしょうということです。例えば、10章38節から42節で、マルタとマリアが出てきて、「みことばに聞き入る、みことばを聞く方を優先している」。最後のところ(11:27)に、「幸いなのは神のことばを聞いて守る人だ」というこの女の話のところで並行しています。ここで何を優先するかという話がありました。

9章の51節からも、『「私についてきなさい」「いや、まず父を葬ることを許してください」「あなたに従います。ただ家にいとまごいの挨拶させてください』』というところもこのマルタの話に似ています。それと、たとえば10章17節からのところに、「天の父よ」と祈りますね。天の父よと父と子と聖霊によって喜びあふれているということで、「父と子と御霊」ということが出てきますけれど、反対側になります13章に、

主の祈りがありますし、「父よ」と祈って、「子」の話があつて、「天の父が聖霊をくださらないことがありますか」ということで、このへんが似ています。

それと、「神の国が近づいた、神の国が来ています」と言う時にこちら(10:1-)は、平安を祈って家々に行つて病人をいやしますよね。こちら(11:14-)は悪霊を追い出しということで、神の国が来る時に、病いを癒し、悪霊を追い出すという権威を与えられて、弟子たちがやっている2つの事、これが並行しています。

その4つの箇所を見ると(9:51-)何を優先してるんですか。(10:1-)神の国が来ましたよ。(10:17-)父と子と御霊。(10:25-)律法を行うこと、これはサマリア人のところですね。

(10:38-)何を優先しますか。(11:1-)父と子と御霊というのが先に来ます。次に(11:14-)神の国が来るという悪霊の話で、(11:27-)律法を守る、みことばを聞いて守る。それを守る者が私の母であるというようなことで、ここのところの順番(10:1-)(10:17-)、(11:1-)(11:14-)は逆になっていますけど、形が似ています。

9章51節からの方は、特に見えるのはここに遣わされた者として10の1から「遣わされた者」「遣わされた者」「遣わされた方を拒む」。遣わされた者が、イエスと同じことしている。主と同じことをしている。それを受け入れる者と拒む者という話をしていますね。

10章17節からのところは、「イエスと同じようにその名を使うと悪霊どもも服従します」ということが言われています。ですから、遣わされた者には権威が与えられているということが、ここ(10:1-)(10:17-)の共通点かなということです。ここ(10:38-)(11:27-)は、みことばを聞くところが共通点です。それと11章1節からと11章14節からのところは、神の国の話なのですけど、聖霊に満たされるのか、悪霊のベルゼベルだと言っている悪霊の頭だと言っているところですね。聖霊なのか悪霊なのかという対比がここにありますよね。

それとここのところ(9:51-)(10:25-)は、何を優先するのかというところなのですが、「どこにでも従います」「私に従ってきなさい」「主よあなたに従います」。これは9章23節にある「私についてきなさい、十字架を負って私に従いなさい」と言われているその従うことが強調されています。全てを捨てて従うということです。全てを捨てて従うというその信仰の行動、それと永遠の命を得るためには、そのみことばを行いなさいということが強調されているかなということです。

みことばに聞いて従うこと。聞く方に書いてあるのは、良い方を選んだということですね。みことばに従うという方に書いてあるのは、永遠の命を受ける、命を得たいならばということですね。善と命と。善悪の木の実と、命の木の実みたいなことですね。みことばに聞いて従う。羊飼いと羊たちのような感じです。

羊飼いの声に「聞き、従う」ということなのですけれども、(聞く方は)羊飼いの声に聞き従って、羊たちになっている。聖霊の家に住む。聖霊が宿っている父の家に住むという羊たちになりますということ。こちら(従う方)は、羊飼いたちになっている。羊飼いと同じ者になっているのがイエスの名がつけられている。イエスの名によって悪霊を追い出す。キリストの名がつけられているので、あなた方に対してするのは、私に対するものだというところが、この辺(10:16)に書いてあります。耳を傾ける、私に耳を傾ける、あなた方を拒む、私を拒むということ。イエスの名がつけられてるというのが、遣わされた者、働き手、権威ある者ということです。主の御名がつけられている者(従う)、聖霊が与えられている者(聞く)。

イエスについて従っていく者に(9:51-)(10:25-)、同じ権威、力が与えられて(10:1-)(10:17-)、その働きが成せる弟子であるということ。みことばを聞いて従う者(10:38-)(11:27-)に、御霊が宿ってくださって、神の子として歩むことができると(11:1-)(11:14-)。命を得られるというのが、この9章51節から始まるエルサレムに向かっていくというその目的をはっきりと示して始まる段落で、戦いが始まるところです。弟子たちの戦いが始まる。イエス様の戦いが始まるところで、まず、私の弟子は誰なのか(9:51-10:27)と、永遠の命を得られるのは誰なのか(10:38-11:28)という戦いを伝授する。権威を与えて、弟子を訓練するのが始まっているというところが、この段落だと思いません。